２０２４年度 学校総合評価

６　今年度の重点目標に対する総合評価

・ 学習活動～主体的・計画的な学習習慣の育成～

生徒は概ね落ち着いて授業を受けている。しかし、意欲があっても学習の方法がわからず、授業に積極的に関われない生徒が増えている。そのため、学習への動機付けと習慣付けを個人面談を軸として計画的、継続的に行った。主体的・対話的な活動を効果的に実施し「主体的に学習に取り組む態度」の育成と生徒目線の授業づくりに努め、６月と 11 月に互見授業週間を設定し、教職員に積極的な見学を呼びかけた。また、見学した授業についてワークシートによる意見交換を行った。見学回数は昨年度に比べ微減だったが、授業づくり、授業改善への意識は確実に進んでいると考える。次年度に向けて生徒への授業アンケートなども行い、主体的で対話的な深い学びを実践するため、授業研究を継続して行っていきたい。

・ 学校生活～集団の一員としての自覚と主体的な活動で学校生活の充実を図る～

「挨拶」と「服装」に重点を置いて指導してきた結果、挨拶のできる生徒は多く、服装も全般的に正しく着こなしている。しかし、授業では声のない受け身的な挨拶で留まる生徒が一部おり、生徒集会などを通して、ＴＰＯを意識した身だしなみと挨拶ができる入善高校生の意識を共有した。今後も校訓「礼儀と品位」の定着に向けて学校全体で意識の向上を図る必要がある。また、ＳＮＳやゲームなどで夜遅くまでスマートフォンを手放せない生徒が多く、生徒間のトラブルにＳＮＳでのやりとりが関係する場合も増えている。各クラスでネットルールを設定させ、取り組み状況を自己評価させたり、専門家の講話を通してスマートフォンの使用について考えた。クラスの風土とスマホ依存傾向の関連性が高く、思ったように改善はできなかったが、学校でできる対策を検討し今後に繋げたい。

・ 進路支援～希望する進路の実現に向かう力の育成～

主体的、積極的に進路に関する情報を得て、自らの問題として考える態度を養い、進路目標達成に向けて困難に挑戦してねばり強く取り組む姿勢を身につけさせたい。小論文や面接など周到な準備が必要となる国公立大学推薦対策として、夏休みから同じ志望分野の生徒でユニットを組み、志望分野に関連する記事をもとに考察させたり自分の意見を出させたりして考えを深めさせ、また面接指導の担当者を変えて行うことにも取り組んだ。スケジュール手帳を持たせ、生活習慣や学習時間を記録することで自己管理や目標設定ができるようにした。その結果、卒業生のアンケートから自分の進路選択に満足している生徒の割合は９５％となった。今後大学入試制度改革に伴い、これまでの知識偏重型から脱却して、思考力・判断力・表現力をいかに伸ばしていくか、本校の指導のあり方を検討する必要がある。

・ 特別活動～主体的な活動を通して学校生活の充実を図る～

校内では明るい挨拶や素直な対応が多くみられるが、校外での活動や人とのコミュニケーションは経験不足や自信がないため消極的な態度になる生徒がいる。ボランティア活動の意義と意識を高めるため、活動の様子や事後の感想文などを掲示板や全校集会での発表、生徒会誌への掲載して盛り上げた。結果、新規のボランティアも含めて自主的に参加する生徒が増加した。この調子でボランティア活動や地域の活動に主体的・継続的に参加することで地域への貢献意識や自己肯定感を高めさせたい。また、部活動の在り方として、希望する生徒が充実した活動を行えるように部活動数の削減や人的支援のバックアップ体制を整えるなど、入善高校の魅力ある活動の一つとなるように順次進めていく。

・ 課題研究～観光ビジネスコース・自然科学コース・農業科の取り組み内容の充実～

＜観光ビジネスコース＞

「地域を学ぶだけでなく、地域で学ぶ」をテーマに、フィールドワークによって地域特有の風土、文化、伝統、日常などを調査する探究活動を行っている。前半は教師の企画するフィールドワークによって地域を眺める多様な視点を獲得し、後半は生徒主体の探究学習によって自ら問いを見つけ出し、さらにそれを深めていく力を養うことを狙いとして活動した。下新川・黒部・魚津エリアにおいて、今年度初めて魚津

市～朝日町までの各地域の特徴を捉えるフィールドワークを６回計画して実施した。また、フィールドワークごとにタブレットＰＣを使って報告書を協働で作成した。各フィールドワークにテーマを設定し、学習の軸を立てたうえで多様な視点を得られるように、生徒たちが自分で町の人々と関係を結ぶ努力ができるように指導を工夫していきたい。

＜自然科学コース＞

課題研究に意欲的に取り組む生徒が増えてきてはいるが、先々まで計画的に研究を進めることができていない。また、課題研究のテーマを決定するのに相当な時間を要し、研究に充てる時間が不足ぎみである。見通しを持った計画を立てさせ、効率よく研究に取り組み過去の実践例や身近な自然の題材も取り入れ、早期にテーマを決定させた。情報科の教員と連携を深め、課題研究に取り組んだ。クリスマスレクチャーにおいて、大学の先生の講義を実施しており全員参加としているが、生徒自身が興味を持てているか疑問があるため、内容を吟味していきたい。学校全体で行事削減が促されているなか、自然科学コースの夏に集中している行事について継続実施できるか検討したい。

＜農業科＞

デュアル委託実習は計画通り実施でき、地域農家の皆様のご協力もあり、有意義な実習となった。２年間継続して行う課題研究では、実施計画を主体的に考え、結果に対して科学的な考察ができるよう指導した。また、GPS トラクターなどスマート農業機械を導入し、実習の際に試乗するなど新しい農業技術の学習にも取り組んだ。９つの連続した学期の表を農場や学級に掲示し、生徒が現時点での目標を意識できるようにする。また、各時期における目標について折に触れて説明するとともに、自身の成長や達成を意識できる機会を作りたい。

７　次年度に向けての課題と方策

・ 地域の核となる人材の育成を目指し、主体的な行動力と良識、責任感のある生徒を育てたい。保護者や地域の意見を汲み上げながら、地域に期待される高校を目指し、学校全体の力量を高める実効ある方策を模索したい。

・ 今後も学校評価システムを通じて、客観的データに基づいた説明責任を果たしていきたい。